

船舶事故調査報告書

令和元年9月4日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 佐藤 雄二（部会長）

委員 田村 兼吉

委員 岡本 満喜子

事故種類	乗組員行方不明
発生日時	不明（平成30年7月5日18時00分ごろ～6日04時40分ごろの間）
発生場所	不明（東京都小笠原村父島南西方沖）
事故の概要	漁船福江丸は、操業しているところを目撃され、船長が、僚船の船長と漁業無線で通話を行った後、行方不明となった。
事故調査の経過	平成30年7月23日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者からの意見聴取は、本人が本事故で行方不明となったため、行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 福江丸、11.72トン TK2-1973（漁船登録番号）、個人所有 11.95m(Lr)×2.90m×1.30m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数120、昭和55年11月27日 第294-8594号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 男性 57歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成3年11月19日 免許証交付日 平成25年11月7日 (平成31年3月1日まで有効)
死傷者等	行方不明 1人（船長）
損傷	不明
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 東、風力 2、視界 良好 海象：波高 約2m、水温 約27℃
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、まぐろはえ縄漁の目的で、平成30年7月3日午後父島二見港を出港した。 僚船の船長は、5日18時00分ごろ、父島南西方沖95Mの漁場において、自船の南東方で操業している本船を目撃し、操業の状況及び予定について船長と漁業無線により通話を行った。 僚船の船長は、6日04時40分ごろ、付近にいる他の漁船を確認する目的で、漁業無線により、他の漁船を呼び出した際、本船から応答がなかった。

	<p>船長の家族は、7日船長に衛星船舶電話を使用して幾度か連絡を試みましたが、連絡をとることができなかった。</p> <p>船長の家族は、9日漁業協同組合が行った漁業無線によっても本船からの応答がないことを知って不安になり、漁業協同組合の担当者と協議し、親族に対し、漁場に赴いて本船の所在を確かめてくれるよう要請し、親族が漁場に赴いて確認したものの、本船が見付からなかったことを知った。</p> <p>船長の家族は、漁業協同組合の担当者と共に、10日09時ごろ海上保安庁に赴き、本船と連絡が取れない旨の通報を行った。</p> <p>本船及び船長は、海上保安庁の航空機及び巡視船艇並びに海上自衛隊の航空機、東京都の漁業調査指導船及び僚船6隻により捜索が行われたものの発見されず、行方不明となった。</p> <p>(付図1 事故発生場所概略図 参照)</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本船は、衛星船舶電話及び漁業無線設備を装備していた。</p> <p>船長は、陸上の仕事を経験し、漁船等に船長及び甲板員として乗り組んだ後、平成27年ごろ中古船として本船を購入し、船長として漁業を営んでいた。</p> <p>船長は、健康状態、操業及び操船の技量等に不安を感じておらず、3日自宅を出る際、11日に帰航予定である旨及び今回の漁の水揚げを行った後、和歌山県所在の造船所に修理に赴く予定であることを家族に伝えていた。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析</p>	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>船長は、行方不明となった。</p> <p>本船は、7月5日18時00分ごろ僚船の船長に操業しているところを目撃され、船長が僚船の船長と漁業無線により通話を行った後、6日04時40分ごろ僚船の船長が漁業無線により、他の漁船を呼び出した際、本船から応答がなかったことから、この間において行方不明となった可能性があると考えられるが、本船及び船長が発見されていないことから、行方不明となった状況を明らかにすることはできなかった。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が操業しているところを目撃され、船長が僚船の船長と漁業無線により通話を行った後、発生したものと考えられる。</p>

付図1 事故発生場所概略図

